

令和3年度（2021年度）

自己評価報告書

学校法人巨樹の会
武雄看護リハビリテーション学校
理学療法学科・看護学科

本報告書は、学校法人巨樹の会 武雄看護リハビリテーション学校の自己評価結果を記したものである。

評価対象期間 2021年4月1日～2022年3月31日

令和4年6月26日

学校長 太田 貞武

学校評価実施責任者

副学校長 磯邊 恵理子（令和3年度）

1. 自己評価の概要と実施状況

1) 自己評価の目的、方針

- ①教職員が自己評価を行う中で、学生教育ならびに学校運営に関する自己点検、確認、検討の機会とする。
- ②自己評価の妥当性を学校関係者評価において確認し、学生教育や学校運営についての客観性・透明性を高める。
- ③自己評価ならびに学校関係者評価により、学校運営・教育活動における課題を明確にして、学校運営の改善を図る。
- ④ 自己評価は本校の学校評価実施規程に則り、「専修学校における学校評価ガイドライン」「学校関係者評価の項目」に応じて実施する。

2) 自己評価委員会委員

委員氏名	所 属
太田 貞武	武雄看護リハビリテーション学校 学校長
磯邊 恵理子	武雄看護リハビリテーション学校 理学療法学科 副学校長
小池 恭栄	武雄看護リハビリテーション学校 看護学科 副学校長
野村 晋広	武雄看護リハビリテーション学校 事務長
中崎 満	武雄看護リハビリテーション学校 理学療法学科 教務部長代行
納富 裕子	武雄看護リハビリテーション学校 看護学科 教務部長代行
秋山 嘉和	武雄看護リハビリテーション学校 理学療法学科 教務主任
太田 裕美子	武雄看護リハビリテーション学校 看護学科 教務主任
山崎 めぐみ	武雄看護リハビリテーション学校 事務係長
大宅 由紀子	武雄看護リハビリテーション学校 事務主任

3) 自己評価方法

令和3年度の教育活動、学校運営の全般にわたり、項目Ⅰ～項目Ⅹの内容について、教職員個人による自己評価・自己点検の機会を設け、集約した結果を参照して、自己評価委員会にて評価を行う。

また、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性について検討を行い、学校関係者評価結果と併せて、健全な学校運営に役立てる。

2. 自己評価の内容

1) 評価基準

自己評価、学校関係者評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による4段階の評価基準にて実施する。

S:十分に達成している。(達成度が高い)

A:達成している。(概ね達成しており、明らかな改善は要しない)

B:達成がやや不十分である。(若干の改善を要する)

C:達成が不十分である。(不適合がある、明らかに改善を要する)

2) 自己評価の内容

項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

項目Ⅱ 学校運営

項目Ⅲ 教育活動

項目Ⅳ 学修成果

項目Ⅴ 学生支援

項目Ⅵ 教育環境

項目Ⅶ 学生の受け入れ

項目Ⅷ 財務

項目Ⅸ 法令等の遵守

項目Ⅹ 社会貢献、地域貢献

項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

総括

学校理念や教育目標、3つのポリシーは、学生便覧やホームページに記載している。教育方針や目標は、学校長より、朝礼、会議、講話等で職員・学生へも周知徹底されており、業界のニーズに向けて職員・学生と同じ目標に向かって取り組むことができている。来校者には学内見学などで学校の特色などを実際に見ていただき、学生の態度にて好評をいただくことが出来ている。

理学療法学科は昨年度入学者より新カリキュラムとなっており、日本理学療法士協会の「理学療法教育モデル・コア・カリキュラム」に準じた教育目標やカリキュラム内容としている。

看護学科は令和4年度の新カリキュラム改正に向けて、カリキュラム委員会を中心に、時代に合わせた教育内容を教授できるように準備を進めた。

課題

新カリキュラムにおいて他職種連携を組み込んでいるため、本校の強みである理学療法学科・看護学科の連携にとどまらず、専門職連携を図っていく必要がある。

改善の方策

今後の科目の中で様々な職種の方に講義をしていただくよう依頼していく。また本校教員が小学校へ出前講義をするなど地域との連携も図っていく。

小項目Ⅰ-1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

総括に記載の通り定められている。

小項目Ⅰ-2

学校の理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界(高校、病院、実習施設など)に周知されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

総括に記載の通り周知されている。

学校長を中心として指示命令系統は明確で、今年度の災害時にもスムーズに伝達がなされた。

小項目 I-3

各学科の教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

今回も業界ニーズを把握しながらカリキュラムの見直しを行った。

項目II 学校運営

総括

学校としての教育方針が毎年学校長より示され、それに基づいて学科ごとに管理目標を掲げ、個人目標を設定し、計画立案・実施・評価(中間・年度末)を行っている。

今年度は学生の主体性を育み教育活動での自発的な取り組みを促してきたため、学校行事で学生が司会進行などを立派にやり遂げてくれた。

教材としてタブレットを導入したため、学生の健康管理や情報伝達、ICT教育を進めることができデータ集約などにも効率化が図れている。また、自宅でも教員からの指導を受けることができるオンライン体制も活用の機会が多くなった。

保護者との情報共有手段として、保護者対象にメール送信機能を新たに導入した。

課題

保護者へのメール送信機能に関して、緊急時は一斉連絡をすぐにできるようになり今後運用予定である。メールが利用できない時の対処について考えておくことが今後の課題である。

改善の方策

保護者メールを活用していく中で不具合の有無を確認していく。

小項目 II-1

目的等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

本校の教育・運営方針は、学校長より毎年4月に全職員へ伝えられ、周知されている。

小項目 II-2

運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

学則等に運営組織図、委員会組織図は示されている。

小項目 II-3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

学内の情報システム化に関しては共有フォルダを活用し一部会議もペーパーレスで実施している。各種会議もオンラインシステムを利用し時間の効率化を図ることが出来ている。

項目III 教育活動

総括

学校理念や教育目標、3つのポリシーに対し、体系的で組織的な教育を実施している。教育方針として教職員の指導力向上を掲げており、学習指導力と生活指導力強化を図った。

学校法人で連携を取りながらシラバス内容の見直しもを行っている。地域での実習ができるように地域の新規実習施設確保も行った。

新型コロナウイルス感染症や自然災害はあったが、オンライン講義など柔軟に対応し、通常月に1回はオンライン講義を実施し教員の授業スキルの向上に努めている。教員間授業評価も実施し、教育内容の見直しも随時図れているが今後は効果判定方法などをさらに強化していきたい。

【看護学科】

教育課程編成については、教員間での共有が図れるように年2回集中会議において教育課程全体をとらえ位置づけを考え共通認識に努めた。

専門職連携に関しては、新カリキュラムの教育内容になるので教員研修に参加し、学生にどのような教育を行っていくか学ぶ機会を得ることができた。教科外活動については、行事・研修等それぞれに目標を定め、専門職業人としての人格形成を行っている。

新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、臨地での実習が受け入れられず学内実習へと変更した実習がある。学内で教員が関われる時間が長くなり、一人一人に合わせた個別指導がしやすくなったメリットもあるが、患者の変化が見られない、指導者との調整する機会などが学べないという課題が残る。学内実習では、臨床での学びを活かし、実際の患者と同じ設定で実技を実施するなど工夫した。実習の前には実習指導者会議を行い、実習目的・目標・指導方法の確認や学生状況などの情報を共有し、実習指導に役立てている。

課題

授業評価は、外部講師、内部教員すべてに実施しているが、内部教員の評価内容は各個人で確認しており全体での情報交換や共有が図れていない。今後は、情報の共有を図り教育の質を向上できるように改善点を明確にする必要がある。

今年も感染の影響により実習の受け入れが難しい施設があった。臨床現場でしか学べない内容もあるためこの部分をどのように補っていくのが課題となる。

改善の方策

出来るだけ実習施設の確保に努めるとともに、学内実習の際には事例やシミュレーター等を効果的に取り入れ、ロールプレイングや看護技術発表等を通して学習を深めている。

小項目 Ⅲ-1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

看護学科カリキュラムとしては、次年度のカリキュラム改正に合わせ、地域連携や専門職連携の教育内容を更に取り入れ看護師としてのキャリア教育につながるように設定した。

小項目 Ⅲ-2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

総括に記載の通り実施している。

理学療法学科では今後の臨床実習に向けて全教員が臨床実習指導者講習会に参加し、実習形態の把握を行った。

小項目 Ⅲ-3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

両学科ともに授業評価を実施している。学生による授業評価もWEBを利用してスムーズに行える状況とした。教員間授業評価も実施し、教育内容の見直しも随時図れているが今後は効果判定方法などをさらに強化していきたい。

小項目 Ⅲ-4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

1年次より国家試験対策を取り入れ基礎固めから段階的に実施している。

小項目 Ⅲ-5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みが行われているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

職員の研修は、オンライン形式の研修会が増えたため積極的に参加することが出来た。

項目Ⅳ 学修成果**総括**

就職活動は積極的に促しており、担任を中心とした全教員による支援に加え、学校長による履歴書指導と面接指導をしていただき、例年よりも早い年内に全員内定を取得することが出来た。

国家試験対策も全職員により取り組みを実施し、1年次から国家試験対策を行っている。

卒業生は、本校の学校関係者評価委員にも選任され、学校教育の改善に協力している。また、実習指導も後輩のために、熱心に指導・助言をしてきている。学校訪問してくれた学生を在学生に紹介し、就職へのアドバイザー役や、学習方法の指導等を協力してもらっている。

両学科ともに数名の退学者があった。

【理学療法学科】

昨年度に引き続き就職内定 100%、国家試験は 44 名全員合格となった。(昨年合格率 97.5%)
進級率 1 年生 86% 2 年生 100% 3 年生 98%

【看護学科】

今年度は、8 月中旬に就職 41 名全員内定、年内に進学 1 名合格となった。各自の就職試験に合わせ、担任、副担任の指導や学校長より履歴書、面接の個別指導を受け、例年以上に早期に決定することが出来た。また進学に関しても学校長より繰り返しの小論文指導をしていただき無事に合格することが出来た。

4 月に国家試験までの年間計画を示し、計画的に学習できるように意識づけを強化した。また、成績不振者については、面接を定期的に行い、実習と並行しながらも課題を提示し、個別指導をしていった。その結果 2 年連続全員合格することが出来た。

進級率 1 年生 95% 2 年生 100% 3 年生 98%

課題

国家試験合格率 100%を継続する。退学者 0 を目指す。

改善の方策

今後もきめ細やかな学生対応を実施し、上記課題の達成を目指す。

小項目 IV-1

就職率の向上が図られているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

履歴書指導や面接練習は、教員および学校長により実施している。自信を持たせて就職試験に臨むことが出来ており、好結果に繋がっている。

小項目 IV-2

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

教員一丸となって取り組み、今年度は両学科ともに全員合格という結果を出すことが出来た。

小項目 IV-3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

両学科とも 1 年次の退学者がおり、職業観の指導を高校時から行っていく必要がある。引き続き初年次からのこまめな指導を行っていく。

小項目 IV-4

在校生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

コロナ禍のため在校生の社会的な活動はあまり行えていないが、可能な範囲で災害ボランティアを行っている。

小項目 IV-5

卒業生の社会的な活躍を把握し、教育活動の改善に活用されているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

卒業生の追跡動向を完全に把握はできてはいないが、多くの卒業生が来校しその都度現状

報告してくれている。今年度は卒業生による講義に加えて講演会も開催した。

項目 V 学生支援

総括

学校長にも就職支援に関わっていただき、求人情報も素早く学生へ伝達し就職活動へと促すことが出来、全教員で丁寧な指導した。

学生一人一人を把握し、各教員がコミュニケーションを取り情報共有しながら支援している。また、必要に応じてカウンセラーと連携を図っている。日々の健康チェックやストレスチェックなどを行い、学生目線での対応を心掛けている。また学生毎に適宜の保護者連絡を行っている。

高校との連携によるキャリア教育(職業体験)は一部オンラインにて実施している。

各種修学支援制度も活用し学生へ適宜アナウンスを行った。

課題

希望する施設への就職が今後さらに厳しくなってくることも想定される。また保護者との連携方法に関して、新しくメール配信機能を導入した。

改善の方策

就職活動について 2 年次からセミナーなどを行うなど早期に対策を取っていく必要がある。保護者メールは定期的に活用して情報発信に努める。

小項目 V-1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

学校長を含め職員全員で支援する体制をとっている。

小項目 V-2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

スクールカウンセラーが月に 2 回来校している。状況に応じて職員との連携を図っている。

小項目 V-3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

保護者会などの全体会は新型コロナウイルスの影響で実施できていない。しかし今回新たに学事システムへ保護者へのメール送信機能をつけ今後運用していくが、送付事項や内容の規定を職員が今後共通認識できるようにすることが課題である。

小項目 V-4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

専門学校部会とも連携を図りながら、随時高校側への職業案内を行っている。

対面型のみではなくオンラインでの対応も行った。

小項目 V-5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

新型コロナウイルス関連の助成制度や8月の水害被災者に対する支援金など随時学生へはアナウンスを行い、学生の修学支援を行っている。

項目VI 教育環境

総括

ICT教育の充実を図り、公的補助金を活用し周辺機器の整備を行った。新しいプロジェクターやAppleTVの設置など学習環境をより良い状況とした。学習アプリを活用し自宅でも教員と課題の通信が出来るシステムを取っている。

感染対策環境も引き続き図っており、長期休暇明けは抗原検査を行うなど感染拡大防止に努めた。

危機管理体制についてはマニュアルのみではなく素早い情報伝達の流れが必要であり職員の意識強化を図っている。被害のあった場所の補修工事にもすぐ対応し改善出来ている。女子寮への防災無線システムも導入することが出来た。

臨床実習・臨地実習では、今年度もやむを得ず学内実習に一部切り替えや、時期をずらして対応した。

理学療法学科では、今後を見据えて新規実習施設への追加登録を行うことが出来た。

看護学科では、指導者会議を定期的に開催し、情報交換や学生指導方法について検討を行っている。新武雄病院主催の臨床実習指導者研修では、本校の教員を4名派遣し、本校の学生の特徴や教育内容を实际指導してくださる指導者への講義やグループ学習で共有することができた。

課題

備品によっては破損したままの状況も認められ、備品の把握管理の徹底が必要と思われる。臨床実習でしか体験できないことも多く、臨床能力向上に向けた対策が必要である。

改善の方策

学内環境整備は優先順位を考えながら行っていく。臨床・臨地実習についても施設と協議を図りながら受け入れを依頼していく。

小項目 VI-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

コロナ禍での授業・演習の場の確保としては、十分はスペースがとれないこともあり、分散登校や時間をずらしての分散演習など工夫し、場所の確保を行っている。

講堂と普通教室とを遠隔で繋ぐシステムも設け感染対策として活用できている。

小項目 VI-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

実習については新型コロナウイルスの影響により安定的ではないが、施設と密に連携を取っており協力態勢は整っている。新型コロナワクチン接種に関しても、新武雄病院が迅速に対応してくれ学生全員が3回目のワクチン接種まで接種することが出来た。

小項目 VI-3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

今年2回の消防避難訓練を行った。引き続き防災教育を行っていく。

項目VII 学生の受け入れ、募集

総括

今年度は、新型コロナウイルス感染予防対策で5月の学校説明会は中止としたが、その後夏のオープンキャンパス・学校説明会等は実施した。また、zoomでの参加や、個人での学校説明等にも対応している。3月には1、2年生を対象としたオープンキャンパスを実施した。

また、高校訪問も感染状況に応じて縮小したが実施した。「佐賀県専修学校啓発事業研修」に参加して、高校生等の情報も広く知ることができた。各高校へパンフレット、募集要項に加え、今年度も卒業生からのメッセージや近況報告を郵送するなど、本校の雰囲気や良さがより伝わるような工夫を行った。ホームページや SNS などでも学校情報を頻回に正確に配信している。

戴帽式後は、在学生の写真とメッセージを高校の卒業校へ送り、高校への情報提供とした。国家試験合格率や就職率は、パンフレット等の資料やガイダンス時のプレゼンテーション等で正確に伝え情報提供を行っている。高校教諭来校時は学内見学をしていただき、卒業生の様子を見ていただいている。

今年も理学療法学科は早めに定員へ達したため、前期入試で募集を終了した。

課題

今後も、感染対策を講じた広報活動が必要であり、より多くの方へ正確な情報を伝えていく。

改善の方策

学生目線で情報伝達を行っていきけるような工夫をしていく。

小項目 VII-1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

総括に記載の通り行っている。

小項目 VII-2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

学校説明会などでは在校生も参加し、積極的に参加者への情報提供を行っている。

項目Ⅷ 財務

総括

財務は法人本部と各学校の財務の2重体制(予算書は1月末に1回目を本部へ提出し確認を受け、2月末に2回目を提出し再度本部に確認)をとっており、学校の財務体制管理が行われている。予算については前年度経理・各学科新年度の事業計画を検討したうえで予算を立て、次年度の収支支出のバランスを取りながら有効的に利用している。しかし、備品の節約等改善の余地あり。経理監査は年に1回会計士により行われている。

課題

今年度は、豪雨での自然災害後の敷地整備に大きな出費があり、更なる節約が必要と考える。

改善の方策

収支状況に関して職員への情報伝達を行い、節約への意識向上を図る工夫も必要と考える。

小項目 VIII-1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

徐々に学生数が確保されてきており安定した財政となっている。

小項目 VIII-2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

総括に記載している通りである。

小項目 VIII-3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

総括に記載されている通り会計監査を実施しており、今後も継続していく。

項目Ⅸ 法令等の遵守

総括

各種法令遵守は行えている。個人情報保護に関しては法人全体の規定を設けており、教職員及び外部講師、学生が遵守すべき事項が定められている。学生に対しては、実習中においても SNS の取り扱いも含め個人情報保護指導を行っている。今年度も、企業にも協力していただき、コンピューターリテラシーについての特別講義を実施した。

課題

ICT 化が今後も進んでいくため、情報管理、自己管理のために、継続的に指導していくことが必要不可欠である。

改善の方策

まず職員間でパソコンや情報の取り扱いについて、意識を必要性がある。

小項目 IX-1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

法令や設置基準を遵守しており、今後も継続する。

小項目 IX-2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

外部企業による個人情報保護の研修を実施してもらっている。

項目 X 社会貢献・地域貢献**総括**

施設での研修の受け入れも行っている。実習指導者講習会など、実習施設との協力体制も取れている。武雄市内外の中学校・高校での職業講話等に協力している。

本校はボランティア活動を推奨しているが、今年度も新型コロナウイルス感染拡大予防のため、募集は少なめであるが、献血や水害による市内のボランティア活動など多くの学生たちが参加出来た。

また武雄市社会福祉協議会の共生型ふれあい事業のボランティアに参加し、作品の完成に協力することができた。3月にも参加予定としているが、積極的に参加したいと自己啓発ができています。

課題

今後もボランティア精神を養い地域貢献を行っていけるよう促していく。

改善の方策

ボランティア参加の実績を称賛するなど周囲が共有できる働きかけを行っていく。

小項目 X-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

総括に記載の通りである。

小項目 X-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

学内活動へのボランティアも含め自主性を促す関りを行っていく。